

「わたしの目には、あなたは高価で尊い。」（旧約聖書 イザヤ書 43章4節）

ライフ・ホープ・ネットワーク（LHN）の相談者や利用者の方々は、妊娠という出来事によって人生の大きな岐路に立たされます。出産することも、自分で育てることも、養親に託すことも、女性たちにとっては大きな犠牲を伴います。しかし同時に我が子の幸せを願う希望に満ちた選択でもあります。赤ちゃんのエコー画像を見て感動して出産を決めた女性は当時17歳、今は母子生活支援施設のサポートを受けながら子育てをし、赤ちゃんの成長や日々変わる表情を楽しんでいます。特別養子縁組を選んだ20代の女性は、我が子を手放した痛みを今も感じながら、息子に対し恥ずかしくない人生を送りたいと仕事に励んでいます。

形は違っても、彼女たちはそれぞれに我が子を心から愛し、我が子の幸せを一番に考えて人生の選択をしました。それは本当に尊い選択です。世の中には、複雑な事情を持って妊娠した女性はそもそも出産するべきではないと考えたり、育児が困難な人が特別養子縁組を選ぶことを「無責任」と批判したりする風潮もあり、彼女たちはこれからの人生でも誰かの心無い一言に傷ついてしまうことがあるかもしれません。でもこれからどんなことがあつたとしても、誰よりも赤ちゃんを愛して下した決断に自信を持ってほしいと思います。そして、彼女たちが我が子の幸せを願うように、彼女たち自身もまた幸せに生きるべき存在であることをいつも知っていてほしいと思います。その意味で、LHNは物質的な支援をするだけでなく、彼女たちの頑張りを全力で褒め、頑張れない時に励ます応援団でもあります。

私たちの活動を支援くださっているサポーターの皆様も、彼女たちの大切な応援団です。奮闘する女性たちに「いいね！」と誉めてくださるたくさんの方々がいらっしゃることは大きな励みです。皆様の応援に心から感謝いたします。

ボランティアカウンセラー 富田美代子（旧姓：吾妻）



特別養子縁組 実親体験記

LHNにホームステイし、特別養子縁組を選んだ翔子さん(仮名)のインタビューを、ブログで6回にわたって連載しました。

特別養子縁組の認知度は上がり、以前よりも情報は増えてきているものの、赤ちゃんを託した実母さん側からの発信や報道はほとんどないのが現状です。翔さんは、後に続く人たちの役に立ちたい、との思いでこのインタビューを引き受けてくださいました。とても貴重な「体験者の生の声」です。ページの都合上このニュースレターに全文は掲載できませんが、ぜひ、ブログでお読みいただき、周りの方々にも共有いただければ幸いです。

インタビュー全文はこちらから

(<https://lifehopenet.blogspot.com>)



1

プロローグ

産んだ後の1ヶ月が特に精神的にきつかったです。自分と同じ思いをしている人を見つけたくてネットで検索しても、全然何もない！養子を迎えた側の体験談はたくさんあるんですけど、出した側の実母の声は何も見つからなかった。

実母の体験談が見つからないかわりに第三者の意見は出てくるんです。養子に出すのは無責任だとか、産まなければよかったのとか、批判的な言葉を見つけて傷つきました。私と同じ思いをしている人が絶対いると思うので、その人たちに「仲間がいるよ」と伝えたいです。

3

出産したら感情が飛び出た

出産前、病院には赤ちゃんの姿を見たくないと伝えていました。なので産んですぐ別室に移される予定でした。でも、産まれてきた赤ちゃんの状態が良なくて、その場ですぐに処置が必要で、すぐそばで赤ちゃんを見ることになってしまいました。見たら・・・感情が飛び出た。

赤ちゃんはNICU（新生児集中治療室）に入っていて、退院3日前にNICUで再会しました。涙が止まらなかったです。離れる寂しさで、退院後2週間ぐらいずっと泣き続けていました。

産んだ直後が一番きつかったと思います。他の人の赤ちゃんを見るのも辛かった。一時期は死にたいとまで思いました。

2

養子縁組一択だった出産前

(特別養子縁組を選んだのは、)虐待家庭で育て、自分が愛情ある家庭を築けると思っていなかったから。赤ちゃんを見ると、かわいいと思います。でもしゃべれるくらいの年齢になったら、「かわいい」だけじゃないですよね。イライラすると思う。私は普段はあまり感情を表に出さない性格だけど、何かあった時に豹変してしまうのではないかと不安に思います。

自分が施設育ちで、自分の子どもに同じ経験をさせたくなかったし、養子縁組の知識もあったので、赤ちゃんをどうするかについては養子縁組一択でした。

4

養親さんと過ごした大切な1時間

養親さんに会いたいかどうか、児童相談所の人に事前に確認されました。会ったら絶対落ち込むから会わない方がいい、と言う友達もいました。でも、落ちてでも会わないと後で後悔すると思いました。養親さんにきちんと子どもを託すことで、母としての自分の最後の役目を果たそうと思いました。

(養親さんとの)面会が終わった後で泣きました。寂しい気持ちもあったけれど、寂しさよりも安心感から出て来た涙だと思います。肩の荷が下りて、何かから解放された感じ。直接会って話をして、この人たちなら大丈夫、ユウ君は絶対幸せになれると思って安心できました。

(実親にとって) 一人で悩まずにコミュニティがあることは大事だと思います。私の場合、養子縁組の選択を友達に批判されて傷ついたけれど、理解してくれる友達もいました。自分のペースで安心して話せる相手がいなければ、今もまだ落ち込んでいたと思います。

養親さんとユウ君と、それぞれに手紙を書いて養親さんに渡しました。その手紙の中に、「幸せになってください」と書いたんです。それを書いた時に「生きなきゃ」と思いました。ここでもし私が死んだら死んだ理由がユウ君になります。それでは幸せになってもらえない。

夜になるといまだに泣くことがあります。でも、将来ユウ君にいつどこで会っても恥ずかしくないように生きていたいと思っているので。辛い時にはそれをひたすら思い出しています。

翔子さんは並大抵ではない人生を歩んで来られた女性です。肉親から虐待され、大人に「守られる」経験をほとんどせずに20代半ばまで生き抜いてきたことに感動すら覚えます。それただ生きていくのではなく、しっかりと前を向いて、明るく生きようとしています。そして、誰よりも「家族」を必要としている立場にありながら、赤ちゃんの幸せのために自分から家族を手放す決断をしました。自分の状況を客観的に見る判断力と、赤ちゃんへの深い愛と、現実を受け止める強さがなければできない決断です。

勇気を持ってインタビューに応じてくださった翔子さんの思いが一人でも多くの人に届き、励ましとなりますように。

メディア・地域とのつながり

◆中日新聞の連載

6月28日から7月1日までの4日間、中日新聞の市民版にLHNについての記事が連載されました。昨年も一度記事を書いてくださった細川記者が、今回はスタッフや近隣の方など広範囲にわたり取材くださり、4日間の連載となりました。

今年に入り、他にも複数のメディアから取材のお申し入れをいただきます。背景には、4月に常滑市であった赤ちゃんの遺体遺棄事件があるようです。29歳の女性が妊娠に気づかないままトイレで死産し、遺体を実家の庭に埋めたという事件です。「実家に遺棄、第一発見者は母親」という点で世間の注目を集めました。この女性のように産婦人科を受診しないまま一人で出産に至るケースは決して稀ではないと感じます。私たちも、孤立する女性たちにとって見つけやすく頼りやすい場になれるよう、できることを考え続けていきたいと思っています。

◆中区役所での講演

3月20日、名古屋市中区の子育て支援ネットワーク「なかっこねっと」の総会にて、LHNの活動についてお話する機会をいただきました。団体の活動内容や、困っている妊婦さんや若いお母さんに対応する際にどのようなことに気を付けているかなどについてお話をさせていただきました。



2023年上期(1-6月) 活動報告

<相談実績(新規相談者数)> Phone/email clients

妊娠 Pregnant	69	相談中に出産を決心：2名
中絶後 Post-abortion	106	ステップ学習開始：41名 ステップ学習終了：5名
その他 Other	4	
合計(人)	179	

<ホームステイ実績> Homestays

特別養子縁組 Adoption	1	
シングルマザー Single mother	3	うち前年からの継続2名
その他 Other	0	
合計(人)	4	

この半期も多くの相談者に恵まれました。特に中絶後相談が半年で100件を超えるのは2020年以来です。また、ホームステイも利用者数は少なかったものの一人あたりの滞在期間が長く、満室状態が続いてにぎやかな半年でした。ホームステイがカフェ・モナミに関わる機会が多かったことも嬉しいことでした。カフェを手伝ったり、お昼を食べたり、他のお客さんと仲良くなったり、さまざまな面でカフェの助けになりました。LHNを通過点として次のステップに進む方々のためにお祈りください。

アナの子どもは小学校に入学！

元ホームステイで現在はフィリピンに住むアナ。彼女が日本で出産したシンシアは、小学生になりました！アナ自身は現在、地域の教会のスタッフとして子どもたちに英語や聖書を教える働きをしています。

これまでお祈りや献金で支えてくださった皆様に感謝いたします。アナと二人の子どもたち（長女アナ、次女シンシア）のために引き続きお祈りいただければ幸いです。



サポーター募集中です！

ライフ・ホープ・ネットワークは皆様からのご寄付のみで運営されているボランティア団体です。支援を必要としている女性たちと小さな命のために安定的に活動を続けるため、一人でも多くの方にサポートいただければ幸いです。

経済的に
サポートいただける方

● ゆうちょ銀行の口座から
00850-5-131374
「ライフ・ホープ・ネットワーク」

● 他行の口座から
ゆうちょ銀行（金融機関コード 9900 / 店番 089）・当座
口座番号 0131374

励まし＆お祈り
によるサポート

カフェ・モナミに遊びに来たりSNSでつながったりして私たちのことを覚えていただき、お祈りください。

一般社団法人 ライフ・ホープ・ネットワーク

● 事務局：〒454-0023 名古屋市中川区石場町2-23-2
● カフェモナミ：〒454-0022 名古屋市中川区露橋2-29-13

● TEL：052-363-3393
● Email: support@lifehopenet.com

<https://www.lifehopenet.com/>

